

議 事 録

会 議 名	令和6年第2回豊川警察署協議会（定例会）
日 時 ・ 場 所	<p>令和6年5月23日（木） 午後3時から午後5時までの間</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>豊川警察署講堂</p>
出 席 者	<p>1 委員 廣田篤会長 櫻井智科子副会長 伊藤正幸委員 SUZUKI MARY MARIE委員 竹本智委員 梅村賀代子委員 岩瀬崇典委員 紋田栞里委員</p> <p style="text-align: right;">以上8名（定数10名）</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>2 警察署員 福田署長 近藤警務課長 與語会計課長 牧野生活安全課長 三浦地域課長 増田刑事課長 塩原交通課長 伊藤警備課長</p> <p style="text-align: right;">以上8名</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>3 有識者等 なし</p>
諮 問 事 項 等	特殊詐欺被害防止対策について
答 申 等 の 概 要	<p>1 高齢者とその家族参加型のイベントの開催 2 金融機関と連携した防犯対策の更なる推進 3 多発する手口や最新の手口を周知するための情報発信</p>
そ の 他	次回開催予定 令和6年9月4日

会議の経過及び発言の要旨	
1 署長挨拶	
2 前回答申に対する具体的施策の推進状況	
(1) 諮問事項	
豊川警察署に望むこと	
(2) 答申事項	
ア 不審者情報の積極的な発信	
イ 自転車利用者に対する交通事故抑止対策	
(3) 推進施策	
ア 答申事項アについて（警務課長説明）	
(ア) 配信方法の周知と活用	
○ パトネットあいち	
商工会議所へ協力を求め、加盟企業等2,000社へ広報チラシを配布	
してパトネットあいちの登録を呼びかけた他、各種イベントや講話	
でも紹介した。	
○ すぐメール	
企業を対象に豊川警察署の各種情報を配信する「すぐメール」で不	
審者情報を配信し、積極的な情報発信に努めた。	
○ アイチポリス	
パトネットあいちの他、愛知県警の（旧ツイッター）で各種情報	
を確認できるアプリ「アイチポリス」の周知に努め、配信方法の多	
様化に努めた。	
(イ) 各種媒体を活用した情報発信	
記録者	警務係長

会議の経過及び発言の要旨	
パトネットあいち、すぐメール	
本年1月から4月の間で不審者情報を15回発信した。	
地元ケーブルテレビとの連携	
ケーブルテレビの画面にパトネットあいちの不審者情報をリアルタイムで表示して視聴者へ配信	
警察官の生の声による発信	
大型商業施設でのイベント時や管内小学校の入学式等で行う防犯講話の際に、警察官から不審者情報や対応要領を伝えて情報発信した。	
地元新聞を活用した注意喚起	
豊川市内の住宅で「宝石の鑑定をする」等と話して貴重品を持ち去る訪問盗が発生した際、地元新聞社の協力を得て不審者への対応要領を掲載してもらい、広く情報発信と注意喚起に努めた。	
(ウ) 今後の推進計画	
豊川市が運営する電子回覧板「結ネット」との連携	
○ 当署へ設置予定のデジタルサイネージの活用	
○ 既存の媒体の効果的な利用の継続	
イ 答申事項イについて（交通課長説明）	
(ア) 学生に対するヘルメット利用促進	
ヘルメット着用に対する意識調査の実施	
高校生対象、ヘルメット着用促進会議の実施	
児童、学生対象自転車教室の実施	
(イ) ヘルメット助成金についての周知	
記録者	警務係長

会議の経過及び発言の要旨
ヘルメット助成金については豊川市と連携し、ヘルメット利用者の増加促進に努める。
(ウ) 今後の推進計画
管内の中学校等 4 校で第一交通機動隊自転車対策小隊、通称「B
フォース」による自転車教室を実施予定
「豊川おいでん祭」会場において、特定小型原動機付自転車の安全利用キャンペーンの実施
スタントマンによる交通事故再現を管内中学校で実施
豊川警察署長による自転車の安全利用広報の実施
3 諮問
(1) 諮問事項
特殊詐欺被害防止対策について
(2) 諮問事項の設定理由（生活安全課長説明）
豊川警察署管内における特殊詐欺被害は、令和 5 年中の認知件数は21件
（前年比プラス14件、被害額約 1 億200万円（前年比プラス約8,500万円）
と大幅に増加し、本年 4 月末時点でも認知件数 8 件と依然として多発傾向
にある。
特殊詐欺の手口は年々悪質、巧妙化しており、今後も被害の多発が懸念
されることから、高齢者を中心とした市民の一人一人に対してその防犯対
策を浸透させることが緊喫の課題となっている。
今回の協議会では、警察がどのように市民の皆様に関心を持って呼び掛け、
浸透させるべきか意見をいただくために諮問事項として選定した。
記録者
警務係長

会議の経過及び発言の要旨	
4 協議	
委員	・ 架空請求のハガキが良く届いていたが、最近は全く届かなくなつた。手口がどんどん巧妙化している。
委員	・ A T Mを操作している特殊詐欺の被害者を銀行員が発見し、警察に通報するなど金融機関と連携した対策が必要だと思う。
委員	・ 特殊詐欺に色々な手口があることを知って驚いた。
委員	・ 自分自身も親と別居しているが、親自身が危機感を持っていない。どれだけ注意しても他人事だと思っている。
委員	・ 警察から高齢者に注意してもらったり、孫と一緒に参加できるイベントの開催など心に響く施策が効果的である。
委員	・ A T Mにポスターが貼ってあるのをよく目にする。
委員	・ これからはポスターなどの媒体ではなく、インターネットの時代である。
委員	・ 私は中学生のころにインターネット時代が始まった。インターネット時代以前に生まれた人には難しいかもしれない。
委員	・ 気軽に相談できる環境ができていない。
委員	・ 警察に相談できるとよい。中には、遠慮して相談できない人もいる。
委員	・ 多発する手口や最新の手口について警察からメッセージを発信して欲しい。
委員	・ 住んでいる地域で定期的開催される高齢者の集まりに参加した。集まりの中でも詐欺被害が話題になっていた。
	記録者 警務係長

会議の経過及び発言の要旨	
委員	・ 私の住む地域では民生委員と話をしたりして情報共有している。
委員	・ 高齢者の場合、多くの方は銀行ATMの前にあるメッセージなどに目がいかないと思う。
委員	・ 高齢者への呼びかけは大切だが、限界がある。
委員	・ 子供世代、孫世代と一緒に話を聞いてもらうのが効果的かもしれない。
委員	・ 携帯電話会社に働きかけて特典を得られるようにしてはどうか。
委員	・ 子供が心配して高齢の親に話をしても言うことを聞かない。
委員	・ タイミングが悪いとだまされてしまう。焦らず一呼吸置けると冷静になれる。
委員	・ 特殊詐欺被害防止のキャッチフレーズがあるとよいのではないかと。
委員	・ メール配信しても高齢者は見ない。高齢者は昼間は自宅に居ることが多いので、パトカーで巡回しながらマイクを使って耳に残るような広報を何度も繰り返してもらいたい。
委員	・ 高齢者はある意味子供と同じだと思う。
委員	・ 少しでも怪しいと感じたら相談できる環境を作り、安心させられる仕組みが必要である。
委員	・ 身近で被害に遭った人がいないと、気を付けようと思う気持ちが湧かないと思う。
委員	・ 体験者の言葉には重みがある。
5 答申	
(1) 高齢者とその家族参加型のイベントの開催	
記録者	警務係長

会議の経過及び発言の要旨	
(2) 金融機関と連携した防犯対策の更なる推進	
(3) 多発する手口や最新の手口を周知するための情報発信	
6 その他	
次回の開催予定は、令和6年9月4日とする。	
記録者	警務係長